

Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N-ro 132

Novembro 2010

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- La 74-a Hokkajda Kongreso de Esperanto
- 第74回北海道エスペラント大会/"Betululo"樺山 裕介 P. 2
- Saluto de nova prezidanto/新委員長あいさつ/ P. 3
横山裕之・JOKOJAMA Hirojuki
- Salutas eksprezidanto/HEL委員長退任にあたって P. 6
HOŠIDA Acuŝi/星田 淳
- Adiaŭ, Samideao Mukai/ 向井豊昭さん/HOŠIDA Acuŝi P. 8
- La 30-jariĝo de la Esperanto-klubo "Pacifiko" P. 9
ウラジオストク・エスペラントクラブ Pacifiko 創立30周年/HOŠIDA Acuŝi
- Danke ricevitaj -受領郵便物- (星田淳 扱い) P. 11
- Konfuzaj vortoj /紛らわしい単語 (中間発表) /麓 千代次 P. 13
- [第1回委員会報告] Protokolo de la 1-a Komitata Kunsido P. 15
- [編集後記/Redaktanto parolas ...]
- (⇒8頁より続き/向井豊昭さん)

La 74-a Hokkajda Kongreso de Esperanto

第74回北海道エスペラント大会

KABAYAMA "Betululo" Yu`suke 樺山 裕介

Ĝi okazis en Sapporo, 2-3an de oktobro, 2010. 20 japanoj(1 nominala), 2 koreoj kaj 2 francoj partoprenis en ĝi.

En la 2a sabate okazis ĝenerala kunsido de Hokkajda Esperanto-Ligo, raporto de ges-roj KAGAYA Yosiharu kaj Ikuko pri sia mondvojaĝo, raporto de s-ro HOŜIDA Acuŝi pri la 6a Azia Kongreso en Ulanbatoro kaj bankedo en japanstila manĝtrinkejo. La geedzoj KAGAYA, demallongaj komencintoj de Esperanto, kuraĝe efektivigis sian planon tra Barato, Jordanio, Egiptio, Hispanio, Britio kaj Svedio. Precipe en Hispanio ili ĝuis la intimecon je Esperantamikeco, kvankam ili ne estas lertaj en Esperanto. S-ro Hoŝida en sia knabeco loĝis proksime al Aŭtonoma Regiono de Interna Mongolio.

Kun tia intimeco al la okazejo de la azia kongreso li raportis sian sperton, en kio estis informo de partoprenintoj venintaj de Norda Koreio, kaj akcesoran historieton pri la pli vasta regiono de mongoloj ol la landlimo de nuna Mongolio.

En la 3a dimanĉe s-ro MA Youngtae vigle preparolis sian esperantistan historion. Kaj li gvidis nin je diversaj distrajoj kaj kantadoj, per kio ni povis efike cerbumi en Esperanto. Lia edzino s-ino HWANG Ungsun ludis korean tradician dancon alloge. Ges-roj SENEAL, normandoj, ankaŭ parolis pri sia esperantista historio; ekzemple, sperto ĉe esperantista kampado apud Bajkalo. Niaj interparolataj aferoj etendiĝis ĝis edukada problemo kaŭzata de registaro.

[要約]

2010年10月 2-3日、札幌かでの2・7にて。2日(土)は北海道エスペラント連盟総会、加賀谷夫妻の世界旅行報告、星田淳の第6回アジア大会(ウランバートル)報告、KKR 弥勒での懇親会。加賀谷夫妻はエスペラント歴は短くても、スペインでエスペランチスト同士の交友を楽しめた。星田は北朝鮮からの参加者、内モンゴルのこども時代を話した(このあたり詳細は前号)。3日午前、韓国のMaさんのエスペラントの歌、ゲームなど。午後はMaさん、フランスの Sencal 夫妻のエスペラント人生、教育・社会問題(国旗国歌、年金問題)まで話は広がった。HWANG Ungsun さん(Maさんの奥様)はすばらしい舞踊(韓国無形文化財)を見せてくださった。

Saluto de nova prezidanto / 新委員長あいさつ

横山裕之 JOKOJAMA Hirojuki

Saluton, karaj samideanoj! Mi estas nova prezidanto de HEL, JOKOYAMA.
Mi elkore salutas vin jene.

新しく委員長になりました横山と申します。委員会の話し合いの中で私が承諾し委員長ということになりました。私は、自分より委員長にふさわしい人はいると思いますので、時期がきたらいつでも私よりふさわしい人に委員長の役職をお譲りしようと考えています。

そう考えるのは、私の能力では外国からお客さんが来てもエスペラントで満足に対応できないなど色々な場面で臨機応変にエスペラントで対応できないためです。特にスムーズにエスペラントで対応できないのは委員長の役職に関して言えば、致命的だと思っています。努力すればよいのではないかと思う人もいるかもしれませんが、努力をしても特に語学については限界があると思うし、天性の力というか個々人の能力にはやはり差があると思います。レベルの高い人と同じレベルにはなれないということはやはりあると思います。

また、50を過ぎて最近は何忘れも多く、度忘れをしたり、若い時みたいに覚えられないということもあります。そういう事情ですので、私の足りない分を埋めるのは、皆さんのお力しかないと思いますので、よろしく願います。

さて、委員長として一番に取り組む課題、つまり、今の連盟の一番の課題は、会員を増やすということだと思っています。また、年齢が若いとか健康であるという人材の面でも、組織を動かす上で問題があると考えています。そういう人材が豊富にあれば、私が委員長をやる必要はなかったと思います。会員自体も高齢化し、若い人が入ってきません。これを打開するにはどうしたらよいか皆さんと考えていきたいと思っています。失敗してもよいというスタンスで色々なことを試してみるのも大事なかなと思っています。費用対効果も大事ですが、失敗を恐れては何もできません。いままでのやり方がだめなのであれば、発想を変えてなにかをやるというのがよいのかもしれませんが、よいアイデアがあれば、積極的にご提案ください。委員会で検討できることはやろうと思います。そのためには、提案だけでなく皆さんのご協力も必要です。よろしく願います。一例をあげると、以前に事務局長であった佐藤さんが、大本さんとの関係を強化して、組織をもっと強化したいというような提案を持っていたようですが、そういうことは難しいでしょうか？他にも良いご提案があれば、お待ちしております。

次に私が考えるのは、どうしたら皆さんに身近なものとして、もっと連盟の活動に積極的に関わっていただけるかということです。私は、個々人がエスペラントをやる一番の原動力となるのは、個々人が一体何のためにエスペラントをやっているのか？ということだと思っています。いやいやながら義務だから仕方がなくやるというのは一番よろしくないと思います。組織として、個人の活動についても受け入れられる部分は受け入れて、悩んでいる人がいれば話を聞いてあげて、個人の多様性をお互いに認め合う懐が大きい組織にしたいと思っています。自分がやりたいこと、こういうこともやるのであれば積極的に関わっていきたいということがあればいてください。できる範囲で善処したいと思っています。

私自身のことに関していえば、アイヌ語とエスペラントを関連づける活動をしてますが、おそらく普通の人はアイヌ語とエスペラントというのはい体どういう関係があるのか、まったく関係がないのではないかと考えると思います。

アイヌタイムズというアイヌの人が立ち上げたアイヌ語だけの出版物がありますが、100名ほどの読者がいます。読者の中にはアイヌの人もいると思います。今までに何回かエスペラントのことを取り上げてその話をアイヌ語で投稿してまます。HELの会員獲得には残念ながら直結してませんが、少なくともエスペラントのことを知らなかった人に、エスペラントをやっている人はどういうことを考えているのかということを知らせることはできたと思います。

1996年、チェコのプラハで開かれた第81回世界エスペラント大会で「プラハ宣言」が採択されました。これは、現代社会におけるエスペラント語使用者の立場を明らかにするもので、多くのエスペランチストが賛同しているものです。宣言には、5条に「私たちの運動は言語上の権利の保証を目指すものである。(Ni estas movado por lingvaj rajtoj.)」

6条に「私たちの運動は言語の多様性を目指すものである。(Ni estas movado por lingva diverseco.)」というものがあります。

この言語権や言語の多様性の問題については、日本国内についていえば、日本語が優位を占めているので、エスペランチストであってもほとんどの人には関係がない、ピンとこないというのはというのが現状だと思います。しかし、私は、日本国内、特に北海道で考えるとアイヌ語がもっともこの問題に関係しているものと考えています。アイヌ民族の誇りを無視し卑下して、これを破壊し、日本の言語や文化に同化するやり方は、時代背景を考慮してもやはりフェアではないと思います。それは逆の立場を想像すれば、理解できることとも思います。

2007年に国連で採択された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」の前文に

は「先住民族は、とりわけ、自らの植民地化とその土地、領域および資源の奪取の結果、歴史的な不正義によって苦しみ、したがって特に、自身のニーズ（必要性）と利益に従った発展に対する自らの権利を彼／女らが行使することを妨げられてきたことを懸念し、」と書かれています。アイヌ民族を含む先住民族が、植民化・同化の過程で苦しんできたことは、このように有識者や当事者を中心として国際的にも認知されています。

この言語権の問題については、臼井裕之さんや木村護郎さんたちが中心となってJEI が主催し、1998年10月に東京千代田区の国立教育会館で開催された世界人権宣言50周年記念シンポジウム「人権としての言語～言語権の思想と実践」でも取り上げられています。この中では、千葉大学でアイヌ語の専門家であった中川裕さんも「アイヌ語復興の現状について」というテーマで発言しています。

エスペラントをやる意義については、連盟は政治的集団でもなければ、宗教的集団でもありませんので、そういう方面で一致した見解を持つことはできないとは思いますが、皆さんはザメンホフのホマラニスモに大なり小なりの影響を受けてエスペラントをやっていると感じにはなりませんか？ホマラニスモに抵抗がある方は、よりあいまいなことばである内在思想でお考えになっても構いません。

外部での色々な発言を拝見しますと、エスペラントは民族どおしをつなげることばで、国際語ではなく民衆語であるという宮本正男さんの発言や、エスペラント運動は、言語権のために活動するので、言語に関しては政治的に中立とはならない（UEA の規約では、国際関係における言語問題については中立的立場はとらないとなっています）という元UEA 会長のケブ・エンダビーさんの発言があります。また、第5 回アジアエスペラント大会（インド）では、UEA 会長のプロバブ・ダシュグプト博士（インド、言語学者）は開会式で、「世界の各言語は民主的にそれぞれが栄えるべきで、エスペラントの文化活動はそれを支えている」と述べました。こういう考えもザメンホフのホマラニスモにもつながっているものと考えています。

私自身は、言語権に対する活動もエスペラントをやる意義の一つだと思いますし、何らかの理念がなければエスペラントをやる意味はないと思っています。英語などの民族語ではなく、公平とか平等とか民主的ということがキーワードになっていて、言葉が通じない民族どおしをつなげる言葉であるエスペラントをやる意義というものを皆さんともう一度考えていきたいと思っています。

理念がなければ、自分は何者かという立場を明らかにしなければ、一般の人に

エスペラントのことを説明するのは難しいと思います。使いやすさだけで説明をしても、英語一辺倒の人には、英語があるじゃないの、私はそんな変なものは使わずに、世界中でよく普及している英語を使うと言われると思います。

最近、「ニホン英語は世界で通じる」（末延岑生著）という面白い本を読みましたが、英語を単なるツールとして使う場合、アジア人などにとって、ニホン英語（要するに単語ごとに切って発話するカタカナ英語）の方が、英米語より理解されやすく、英米人にも通じると書いてました。ニホン英語は、世界中で最も通じる英語の一つと主張してます。卑屈になることなく、ニホン英語で突き通すというやり方もありかな？と思いました。どうしても発音でネイティブに通じない時は、「怖いくらい通じるカタカナ英語の法則」（池谷裕二著）のようなやり方もあるようです。日本語の音韻体系から離れた無理のある発音にこだわることはないと思うし、要は通じればよいと思ってます。

言語権だけの話になりましたが、それ以外の色々な考えも私は否定しません。楽しんでやってますでも、他に様々な意義を見つけてやってますでもよいと思います。色々な人が多様性を認め合って、連盟が色々なものを内包している豊かなコミュニティになればよいなと思っています。故J・F・ケネディ大統領は、「地球の未来のためには、すべての人がお互いを愛する必要はない。必要なのはお互いの違いに寛容であることだ。」と言いました。

お互いに善意を持って、想像力を働かせて、寛容な心を持てば、たいいていこのことはうまくいくと信じています。

Salutas eksprezidanto

HEL委員長退任にあたって

HOSIDA Acusi / 星田 淳

Dankon al vi, samideanoj de HEL, ĉar vi permesis min fine liberiĝi el la tasko de Prezidanto de HEL. Unue mi ĝojas pri tio, ke nova generacio de nia anaro havos eblecon pli vigle kaj efike agadi por nia afero, sed due mi bezonas konfesi, ke mi sentas pli da pento ol da fiero en niaj agadoj dum mia longa laborperiodo sume tra 22 jaroj

ここ数年、委員長交代（辞任）希望を北海道大会の時をお願いしていましたが、今年の大会で実現できました。横山新委員長に 連盟員、役員の方々の皆さんの支持と

協力を よろしくお願いします。

私自身については 機関誌などの業務は残っており、「解放された」という気持ちからは程遠いところですが、委員長就任以来いろいろ あったこと、考えたことをざっと振り返ってみたいと思います。

1988年、札幌での日本大会のあと、当時の三沢正博委員長から辞意表明と「あとをよろしく」と後任指名に近い言葉があり、役員で協議の結果、結局受けざるをえないことになりました。

前委員長など当時の多くの movado-gvidantoj の考えに「エスペラントを世間の人の目に見えるものにする」があったと思います。私も同感で、機会をとらえては努力してきました。

古くは冷戦時代、ベトナム戦争の最中 現地の人からの通信紹介、ソ連などワルシャワ条約軍のチェコ侵入や中国の天安門事件についての現地からの通信。新聞社からの取材や投書でかなりの記事が出せました。

天安門事件の記事に対しては中国のエスペランチストから若干の反発もありました。当時国際文通団体にエスペラントを導入していた（故）栗栖継さんがそれに対応していました。1999年夏のNATO軍による空爆下のユーゴスラビア、2002年のイスラエル軍による占領下のラマラからの通信もこの方向のもので、あちこちの新聞に出たようです。

このような仕事は日常の国際文通（通信）、ある程度のジャーナリスト感覚があればできることで、もっと広がってほしいと思います。せっかく学んだエスペラントの実用を、どんどん広げてください。どうしたらそれができると思いますか。文通相手は機関誌（La Revuo Orienta, La Movado など）やインターネットで見つかります。姉妹都市との交流など、新聞社のいい材料だと思いますが。

エスペラントを母語として育つ人はゼロに近いから、講習会、展示会など世間の人が学べる機会を提供する必要がある。今北海道の何ヵ所でこれが開かれていますか。活動を広げることを考えたい。横山委員長の Saluto に

「連盟の一番の課題は、会員を増やすということ」とあります。Tute prave!!! そのためにはまずエスペランチストを増やさねば。「エスペラントって何？」という人がいる、と時々聞く。我々が「世間に見える活動」をしていない、ということでしょうか。

連盟はエスペランチストに対してはサービス団体として加入者に対してなにができるかを考えましょう。委員長のあいさつの「もっと連盟の活動に積極的に関わっていただけるか」は これにも関わりがあります。

委員長の「アイヌ語とエスペラントを関連づける活動」と言えるかどうか、はともかく、はじめは1979年に第1版を出した Ainaj Jukaroj の出版でしたが当時の理念：「英語でもエスペラントでも外国語を学んでも情報を受け取るだけで日本からの発信はほとんどない。我々はエスペラントで何を発信するか」から始まって北海道としては「アイヌ伝統文化の紹介」となった、と私は理解します。道外ではその地方の「民話紹介」が多かった。北海道はもともと蝦夷地、すなわちアイヌの土地だった、からこうなった、と思います。当時「アイヌ神謡集」の外国語訳は一つもなく、新聞、雑誌の記事にも出てエスペラントの存在を示すことができました。

委員長の「何らかの理念がなければエスペラントをやる意味はない」に私は同感できますが、どんな「理念」をもつかは個人の自由ですから、その点を考慮した末にまとまったのが1905年、第1回世界エスペラント大会での、いわゆるブローニュ宣言でした。

Adiaŭ, Samideao Mukai / 向井豊昭さん

HOSIDA Acusi

今年の北海道エスペラント大会と同時期、東京（日比谷公園）で開かれたグローバルフェスタのエスペラント・ブースに来た横浜の人から

> 北海道の小学校で20数年前、向井先生からよくエスペラントの話聞いていたという話が出て話題になっています。いまでは北海道でも彼を知る人は少ないか、と思いますので ちょっと紹介します。

日高管内の静内、日高、三石、新冠で小学校教員の傍ら文学活動とエスペラントにかかわっていました。HELで出した Ainaj Jukaroj (アイヌ神謡集) に入っている挿し絵は彼が子供たちに描かせて送ってくれたものです。

彼は千九百七十年代のはじめ頃から Grajnoj en vento (エスペラントによる学校間交流) の活動に参加していました。その頃ちょうどアイヌの伝承民話を世界に紹介しようとの話が出、これが Ainaj Jukaroj (アイヌ神謡集) の出版につながったのですが、彼がこれについて書いてきた

「ひ・と・こ・と」を思い出します。

その少し前の1968年、ちょうど北海道百年（明治維新百年でもあるが）にあたって札幌で日本エスペラント大会を開く機会にエスペラント文の「北海道観光案内」を出したのですが、その内容の批判などがかけられていました。（⇒16頁へ続く）

La 30-jariĝo de la Esperanto-klubo "Pacifiko"

ウラジオストク・エスペラントクラブ Pacifiko 創立30周年

HOŜIDA Acuŝi

10月20日、創立30周年を迎える Pacifiko に対して HELから次の祝辞を送り、1982年夏ナホトカでの Sergej ANIKEJEV-星田 の対面以来の長い付き合いを振り返りました。

Kara samideano Aleksandr Titajev,

Elkoran gratulon al vi pro la 30-jariĝo de via E-klubo sendas ni, samideanoj en Hokkajda Esperanto-Ligo.

Mia kontakto kun rusa samideano en via Apudmara Regiono komenciĝis en 1982, kiam en Naĥodka mi renkontis S-ron Sergej Anikejev, kiu veturis tien de Vladivostoko por vidi min.

これに対して11月1日 向こうの代表、S-ro Aleksandr Titajev から次の返事 (行事報告 k. a.) がありました。

Kara samideano HOŜIDA Acuŝi!

Mi kore dankas vin pro la salutmesaĝo okaze de la Jubileo de nia klubo

Jen estas kurta raporto pri tiu evento:

Al "PACIFIKO" 30-jara

La 20an de Oktobro 2010 la Esperanto-klubo "Pacifiko" festis sian 30-jariĝon, kvankam la unua Esperanto-grupo estis fondita de Fjodor Postnikov en 1891 kaj en 1901 estis oficialigita kiel filio de Peterburga societo "Espero". Tiu societo ekzistis ĝis 1936.

Dum la solena kunsido Aleksandr Titajev-prezidanto de E-klubo, detale rakontis pri la historio de fondiĝo de la unua E-grupo kaj la nuntempa E-klubo, daŭriganta la tradiciojn de la unua E-societo, helpe de lum-bildoj.

Li ankaŭ sonigis la salutmesaĝojn, ricevitaj speciale al jubileo de la

klubo el diversaj anguletoj de la mondo. Venis mesaĝoj el Japanio(4), Koreio, Ĉinio, Bulgario kaj certe de la REU-estraro, el urboj Ivanovo, Soĉi kaj esperantistoj de najbaraj regionoj de Rusio.

Ekzemple, en sia salutmesaĝo s-ro Teruhiro SASAKI, Prezidanto de Komisiono de UEA pri Azia Esperanto-movado (KAEM) skribis: "Ni elkore bonvenigas rusajn esperatistojn al KAEM. Bonvole partoprenu aktive, karaj samideanoj de klubo "Pacifiko", en Azia Movado por altigi nivelon de Azia Esperanto. Via helpo estas necesa!"

Krome estis aranĝita la ekspozicio, kie estis prezentitaj la arkivaj materialoj, la jurnalaj kun la artikoloj pri la kluba agado, atestoj, fotoj k. t. p. La partoprenantoj de la kunsido fotigis por memoro.

Aleksandr TITAJEV, Vladivostok

(Komento de la Red.: HOŝIDA Acuŝi)

ウラジオストク・エスペラントクラブ Pacifiko は今年創立30周年を迎え、10月20日その祝賀会を開きましたが、この街での最初の動きは1891年フォードル・ポストニコフによるグループ創立にさかのぼります。1901年にはペテルブルグのエスペラント会 "Espero" の支部として公認され、活動は1936年まで続きました。

現在のクラブ Pacifikoのアレクサンドル・ティターエフ会長は一世紀以上にわたり受け継がれたエスペラントの歴史を画像を使って説明しました。

世界各地 -- 日本(4通)、韓国、中国、ブルガリア、ロシア・エスペラント同盟の役員、ロシア国内ではイワノボ、ソチーからの祝辞も紹介されました。

KAEM (UEA のアジア・エスペラント運動委員会) の佐々木照央議長は「ロシアの皆さんをアジア・エスペラント運動は歓迎します。Pacifiko の皆さんも力を貸してください!」と書いてきました。

会場には長い運動の歴史を物語る古い資料、新聞記事、写真などが展示され、参加者たちの記念写真撮影がありました。

なお、S-ro Sergej Anikejev が函館に移ってからウラジオストクの UEA-Delegito はしばらく空席でしたが、今年から S-ro A. Titajev が就任しています。

*VERDA \$TOFO;Printempo, 調布エスペラント会会誌 創刊春号、2010年4月4日発行:表紙+ B5X7頁、日本語、ただし「ゲゲゲの鬼太郎」の歌詞だけエスペラント文(詩)がある。

会報発刊にあたって、調布E.会誕生の頃、活動報告など。

*VERDA \$TOFO N-ro. 2, 調布エスペラント会、2010年6月5日、表紙+ A4X7頁、日本語、関東エスペラント大会(調布)特別号。「調布エスペラント会の先人」を見ると、佐々木孝丸、井上裕、江森己之助、馬場清彦、古関吉雄、井川幸雄、とそうそうたる大先輩がそろっているのに驚く。

*VERDA \$TOFO N-ro. 3, 調布エスペラント会、2010年8月27日、表紙+ A4X11頁のうち1頁強のエスペラント文は6月のアジア大会(モンゴル)について。関東エスペラント大会報告号、大会関係の写真多数。調布に昔住んでいた武者小路実篤記念館の「新しき村」資料にエスペラント、ザメンホフ、ホマラニスモ関係の記事発見!

*La Tamtamo: 第424号、2010年9月号、A4X8頁、JER(Jokohama Esperanto-Rondo, Hama-Rondo)発行、日本文。よこはま国際フェスタ2010でのエスペラント宣伝計画予定。ロシア人留学生ザキロフさんの「Ivo Lapenna の人道主義的国際主義について」は interna

ideoについての考察。受領会報ご案内に Heroldo de HEL. 「インターネットのエスペラント教材/柴山純一」連載中。「国際語エスペラント無料セミナー」のチラシ同封。

*Mejl\$tono:2010septembro N-ro 220 仙台E会: B5X 8頁中E.文3頁半は世界大会(キューバ)報告(SAITO TUME)と小学生へのエスペラント歌唱指導記事(SANPEI Keiko)。9月末フランスのセネカル夫妻来訪予定。

*Al Vi Kara; N-ro 100, septembro 2010, Kioto-Esperanto-Societo, B5X28頁のうちE.文約5頁。100号記念として1頁の1、2号表紙とほか2頁にカラー写真。1~18頁に100号記念関連記事、うち5頁は「Al Vi Kara 1~99号の軌跡/森川和徳」。

*新刊のご案内と宣伝のお願い:2010.9.26、札幌郷土を掘る会、連絡先:T.F 011-785-2622, 『小説「血の呻き」とタコ部屋」(10月末、発行)

*Eskalo 第137号(2010年第4号)、2010年9月29日、川崎E.会、B5 X8頁のうちE.文3頁はアジア大会報告/佐口優子と「加賀の昔ばなし/北川和夫」のE.訳。チリの元大統領の姪イサベル・アジェンデの「精霊たちの家」にエスペラントにふれる箇所が2ヵ所あるという。

*受講生通信 第132号、2010-10-01、

沼津エスペラント会, B5X14 頁の内E. 文合計1頁。催物欄に北海道大会の予告

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行, N-ro 716 oktobro 2010, B5X16 頁のうちE. 文4頁。巻頭2頁は Kuba UK. モバード俳壇番外編「hajko の作り方」は4回で終わり。特別寄稿に「柴田巖著『中垣虎児郎』を読む／畑山康幸」。この本は最近リベロイ社が出版。「追悼 梅棹忠夫さん」に藤本達生と峰芳隆の文。

*NOVA VOJO : N-ro 466 oktobro 2010, EPA (エスペラント普及会)、A5 X34頁中E文6頁。巻頭言の「国際歌祭／裕大福」は10月9日ブラジルで開かれたはず。第6回アジア大会関係記事4頁。「ウラジオストクのポストニコフと二葉亭四迷」は19世紀から20世紀にかけてのこの地域のくわしい歴史。

*La Movado; KLEG 発行, N-ro 717 novembro 2010, B5X16 頁のうちE. 文3頁。巻頭文は「鹿児島でエスペラント運動」、続いて「読書キャンペーン」に答える読書宣言。Baghy, Zamenhof, Engholm のもの、UEA 東西叢書などがあげられている。「中国エスペランチスト訪問旅行／沢谷雄一」連載開始、Heroldo N-ro 130に出た文の一部が日本語で要約されている。

*Novajoj Tamtamas: Internacia Ga-

zeto de Jokohama Esperanto-Rondo (JER, Hama-Rondo); N-ro 252, 253/septembro, oktobro 2010, A4X8頁、全文E. 巻頭に Gratulon al s-ro AIDA Kiyoshi! と日本大会(長崎)での文芸コンクール(翻訳2位)の記事 1~3頁に会員の unuminuta sinprezento, 短い話題提供の見本。3~4頁の Aerbombardego sur Tokio/YAMAZAKI Masaru は1945年3月の東京大空襲の体験記。続く頁には東北のお祭りなど。

*La Tamtamo: 第424号(? 前号も同番号), 2010年10月号, A4X8頁, JER 発行、日本文。巻頭は Novajoj -- と同じく「おめでとう、相田清さん」。

第80回読書会報告は Tiel okazis aŭ mistero minora(F. Szilagyi) について。William Auld が「面白いE. 原作小説」と言い、UEAは lingve elstara と紹介する。過去2度出版され売り切れている。

*Mejlstono: 2010 novembro N-ro 222 仙台E会: B5X 10頁中E. 文2頁弱は La gastoj el Normandio/SANPEI, 北海道大会にも来た Ges-roj Senecal の来訪記事。今回5回目、6週間の日本旅行の目的は Amikeco. 仙台、塩釜、多賀城などを回って札幌へ向けて出発するまで3日間のこと。Danke ricevitajに H.de HEL 131号を紹介。

A :

aero 空気、areo 面積、akiri 手に入れる、ago 行動、aĝo 年齢、
 aliĝi 加入する、aliigi 変わる、aparteni 所属する、aperi 現れる、
 aspra 無骨な、aspiri 熱望する、atendi 待つ、atenti 気づく、
 artikolo 冠詞、記事、条項、artiklo 商品

B :

bani 入浴させる、bari 妨げる、bendo バンド、bildo 絵、映像、
 birdo 鳥、brui 騒音を出す、騒ぐ、bruli 燃える

C, Ĉ :

celo 目的、ĉelo 細胞、ĉielo 天空、cerbo 脳、cervo 鹿、ĉevalo 馬

D :

deponi あづける、預金する、destini 予定する、disponi 思いのままにする、
 処分する、deveni 由来する、diveni 言い当てる、推定する

E :

espero 希望する、esprimi 表現する、estimi 尊敬する

F :

fali 落ちる、fari 為す、fela 毛皮の、fera 鉄の、ferio 休日、
 fiero 誇り、filo 息子、flago 旗、flego 看護、foje あるとき、
 fojo 度、回、farmi 小作する、fermi 閉める、formi 形成する

G, Ĝ :

gasto 客、gesto 身振り、手真似、gusto 味、好み、geno 遺伝子、ĝeno 迷惑、
 genio 天才、ĝenio 精霊、才能、gojo 異国人 (ユダヤ人から見て)、
 ĝojo 喜び

H :

heleco 明るさ、herco ヘルツ

I :

importo 輸入、imposto 税金、indecio 品位、品格、indico 指数、徴候、
 instali 取りつける、instrui 教える

J, Ĵ :

ja 確かに、je 数量などを示す前置詞、ju より～なら、jeto ジェット機、
 jeto 投げること

K :

kara 親愛な、高価な、kareo カレー (粉、料理)、kolekti 集める、
 korekti 訂正する、koloro 色、kolero 怒り、kompari 比較する、

kompili 編集する、konsili 助言する、konsoli 慰める、kora 心からの、
kore 心から、korto 庭、korpo 体

M :

mardo 火曜日、marko 記号、marto 三月

N :

naĝo 泳ぎ、neĝo 雪

O :

obteno 入手、obstino 頑固、ofero 寄付、寄進、afero 事柄、仕事、
oferti 提供する

P :

pago 代金、paĝo ページ、pasi 過ぎる、paŝi 歩く、peco 一片、
peko 罪、あやまち、peni 努める、peri 仲介する、preni 手に取る、
pensi 考える、penti 後悔する、pentri 絵を描く、penetri 入り込む、
permeso 許可、promeso 約束、peza 重い、prezo 値段、prozo 散文、
posto 後ろ、poŝto 郵便、premo 圧力、primo 素数、pripensi 思案する、
proponi 提案する、pli より、plu さらに、plej 最も

R :

rakonto 物語、renkonto 出会い、rego 統治、reĝo 王、
relativa 相対的な、rilativa 関係の、reto 網、rito 儀式

S, Ŝ :

salti 跳ぶ、saluti 挨拶する、sago 矢、saĝo 知恵、sango 血、
ŝanĝo 変化、sati 満腹する、ŝati 評価する、segi 挽く、seĝo 椅子、
senco 意味、sendo 送付、sento 感じ、staturο 身長、statuto 会則、
stalo うまや、畜舎、ŝtalo 鋼鉄、stelο 星、ŝtelo 盗み、
stero 薪1立方メートル、suferi 苦しむ、sufiĉi 充分である、
sperti 経験・体得する、sperto 経験、spiri 息をする、spiro 呼吸、
spirito 精神、spriti 機転を利かす、sprito 機知

T :

tablo テーブル、tabulo 板、teni 支える、tiri 引っ張る、
treni 引っ張っていく、teruri 恐怖を与える、toleri 我慢する、許容する

U :

ungo 爪、urĝo 緊急

V :

vanto (マストの) 支索、vento 風、ventro 腹、vetero 天候、vintro 冬、
vitro ガラス、vico 行列、voĉo 声

~EZO~ :

rezono 道理、条理、sezono 季節

【第8回委員会報告】 Protokolo de la 8-a Komitato Kunsido

[日 時] 2010年 9月 18日(土) 午後1時～3時

[場 所] 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階会議コーナー

[出 席] 阿部(司会)、後藤純(書記)、後藤、星田、横山

[欠 席] 川合、椿、中田

[議 事]

1、組織…特になし

2、財政…7/31以降の支出が5件(旅費、機関誌用紙、封筒代等)

3、広報

- ・ HP 9/18 現在アクセス数—65,768件、月あたり2~300件位、全頁のアクセスをカウントすると月3000頁位。
- ・ メルマガ…9/3に142号を発行。部数1,040、今後はJEIの方からも記事を貰う。
- ・ 今迄パソコンで「北海道エスプラント連盟」を検索すると、トップに宮沢さんのHPが出てきて、HELの古いURLにリンクしていたので、宮沢さんと交渉して現在のURLに変えてもらう。交渉は横山委員がする。

4、情報・宣伝

・ エルプラ祭りについて

今年は、昨年に比べてエスプラントの部屋の場所がよかったからか、参観者もまずまず来てくれた。阿部委員が急遽作成したちらしを1階や4階で配布したのが効果的だった。来年度に向けての反省点は、配布用のちらしを用意することと、来訪者の人数把握をするために、1時間毎に当番を決めておよその人数をカウントする。

5、教育・研究…特になし

6、図書

9月5日に横山委員と中田委員が札幌市の柴田研修センターに一時保管してもらっていたHELの図書を苫小牧の柴田医院宅の多目的ホールの片隅へ運搬。図書の扱いについてはこれまでも討議してきたが、改めて下記のことを確認した。

○現存の図書のうち“Ainaj Jukaroj”と、HELで発行した本、及び今後、教育資料として使うもの(パンフレット類等)以外は全部、柴田医院へ寄贈する。尚、HELに関する歴史的に重要な文書や資料は、保存図書とあわせて保存する。

従って、図書部は廃部、HELの所有図書は、上記以外はなし。

7、機関誌

90部発行、送り先が重複しているところがあるので整理が必要。

次号発行予定は、11月20日(土)午前中

8、第74回北海道エスプラント大会

○椿委員欠席のための穴埋め—星田委員長のアジア大会報告に変更

○S-ino Maの韓国舞踊用のCDプレイヤーが要るかどうかが訊いて用意する(委員長)

○スクリーン用模造紙用意(阿部委員)

○当日受付(阿部委員):参加費—3千円、Bankedo(場所KKR)—3千円

○謝礼用意：S-ro Senecal (1万円) Ges-roj Ma (2万円) 準備 (後藤純委員)

○Bankedo→進行 (委員長)、食事誘導 (後藤義委員)

9、来年度委員会人事

椿委員が来年度は辞任を申し出ているので実際に動けるのは6人である。川合事務局長から、健康上難があるが誰も代わってくれる人はいないと思うので事務局長に留任する旨申し出があった。他の委員も年齢上の、あるいは、健康上のまた親の介護などの問題を抱えながら委員を引き受けざるを得ない状況にある。この上は、会員のみなさんの以前にもましての理解と協力が必要である。

・現時点で決定している役割分担：事務局長→川合、会計→後藤純

☆ 次回委員会：10月3日 (日) 午後4時～ 場所→KKR (喫茶室)

以上

[第1回委員会報告] Protokolo de la 1-a Komitato Kunsido

日時：2010年10月3日（日） 16:00～16:30

場所：札幌市 かでる2.7の1階展示室（ロビー）

出席：後藤純子、阿部、星田、横山、後藤義治、切替、樺山

[議事]

*役員改選

横山裕之（委員長・広報部長）、川合由香（事務局長）、樺山裕介（事務局組織担当）、切替英雄（研究教育部長）、星田淳（広報・機関誌）、後藤純子（会計）、阿部映子（研究教育）、中田実、後藤義治

*次回委員会 k. a. ; 11月20日（土）

10:00 ～ : Heroldo de HEL N-ro 132 印刷

場所：札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

札幌市民活動サポートセンター（2階印刷室）

13:00 ～ 第2回HEL委員会

場所：札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

札幌市民活動サポートセンター（2階打合せコーナー）

15:00 ～ ・第3回 2012年日本エスペラント大会LKK

場所：札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

札幌市民活動サポートセンター（2階打合せコーナー）

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*Danke Ricevitaj deで紹介した La Movado N-ro 717 の沢谷さんの文、Heroldo de HEL N-ro 130 に出た Rizhao をかなり縮めて要約し日本語にしたものが入っています。

(⇒8頁より続き/向井豊昭さん)

- > アイヌの民族性、人権を奪った北海道百年に呼応するかなのようなパンフレット
- > を出したHEL（北海道エスペラント連盟）が、今、アイヌの伝承文学の
- > 紹介に乗り出していることに私は矛盾を感じずのです ——わたしは、
- > 自分の声は何一つ反響をもたらさないだろうということを予測しながらも、
- > やはり言うことにしました。 向井豊昭（日高）

もうその頃は神謡集の分担を決めて共同翻訳にかかっていたましたが、彼の意見が話題になることはありませんでした。彼の予測通りでした。

彼にも共同翻訳への参加を呼びかけましたが「実力不足で」と断られました。しかし神謡（ユーカラ）の内容を表す絵を小学生に描かせて送ってくれました。

彼はこれより前、日高支庁の中でもアイヌ系住民の多い静内の小学校で民族問題（アイヌと和人との関係）について感ずることが多かったようです。「北海道文学全集」に入っている「うた詠み」はその頃の彼の自伝的作品です。

その後（1990年ごろ？）、本格的な作家を目指して東京へ出、早稲田文学新人賞を受賞しましたが2008年に亡くなったとのこと。その前の2007年彼は手書き個人誌 *Mortos*（死ぬーの未来形）を発行し始め、その終刊号は2008-08-15になっています。ガンで死期を知った彼が文字通り「死の予告」として出したのでしょう。彼の心の中に エスペラントは最後まで生きていたようです。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、 青年会員（26歳未満） 1500円、
購読会員 2000円、 家族会員 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

*ORGANON REDAKTAS: HOŝIDA Acuŝi

*機関誌：〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS: 0144-74-2539

Retadreso: hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

*事務局：川合由香

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

〒060-0808 札幌市北区

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

北8条西3丁目札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター レーケースNo. 45

TEL-FAKS : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>